岐　歯　学　誌
49巻3号　93～98
2023年2月

短　報

朝日大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修の症例報告のテーマに関する調査

羽田詩子　横矢隆二　澤田季子　岩堀正俊
瀧谷佳晃　後藤隆志　安田順一
北後光信　岡　俊男　藤原　周

The Trend of Case Report Subjects Presented by Dental Residents of Asahi University Hospital

Hata Utako, Yokoya Ryuji, Sawada Toshiko, Iwahori Masatoshi,
Takitani Yoshiaki, Goto Takashi, Yasuda Jun-ichi,
Kitago Mitsunobu, Oka Toshio, Fujiwara Shu

朝日大学では，歯科医師臨床研修の最終時期に自身が経験した症例の中から1つを選択してプレゼンテーションを行うことを必修課題としている．

今回，症例報告のテーマを調査することにより，研修歯科医が高頻度で行う治療や症例発表として取り組みやすい治療内容について考察することができると考え，本調査に着手した．

研修歯科医の症例発表には，「コンポジットレジン修復」，「抜歯・根管治療・クラウンブリッジ・義歯のように一連の流れを経験する治療」，「抜歯・智歯抜歯」といった高頻度治療のテーマが選択される傾向がみられた．

キーワード：歯科医師臨床研修，症例報告，テーマ

All dental residents at Asahi University School of Dentistry Hospital, while in clinical training in general dentistry, were required to give a presentation on particular case study in which they gained experience in during their training.

we have classified these cases according to their titles and the frequency by which certain subjects and general themes recur in the content, thus identifying a trend in the type case reports that residents tend to present.

In the over all items reported, cases on composite resin restoration, Combination treatment and tooth extraction were most frequent.

Key words：postgraduate dental clinical training, clinical case presentation, titles

緒　言

2006年度より義務化された歯科医師臨床研修制度は[1-5]，「歯科医師が，歯科医師としての基盤形成の時期に患者中心の全人的医療を理解した上で基本的な診療能力を修得することにより，歯科医師としての資質の向上を図ることを目的としている．」[1]

厚生労働省では，歯科医師臨床研修の基本理念として「臨床研修は，歯科医師が，歯科医師としての人格をかん養し，将来専門とする分野にかかわらず，歯科

朝日大学医科歯科医療センター臨床研修委員会
〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851
Committee of Postgraduate Dental Training Program, Asahi University Medical Dental Clinical Center
1851 Hozumi Mizuho-city Gifu Japan 501-0296
（2022年12月21日受理）

医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ，一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう，基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない.」と示している[1)].

朝日大学医科歯科医療センター（2018年に朝日大学歯学部附属病院から改称）では，研修の最終時期（3月）に自身が経験した症例の中から1つを選択してプレゼンテーションを行うことを必修課題としているが，その症例に対するフィードバックがさらなる資質の向上に繋がるものと考える.

今回，朝日大学歯学部附属病院において，「本院1年間」,「本院4か月＋協力型施設8か月」の2つのコースが存在した時期における症例報告のテーマを調査することにより，研修歯科医が高頻度で行う治療や症例発表として取り組みやすい治療内容について考察することができると考え，本調査に着手した.

方　法

1. 対象

本調査は，2010年度から2017年度までの8年間に朝日大学歯学部附属病院において歯科医師臨床研修を修了した500名（2010年度：80名，2011年度：59名，2012年度：62名，2013年度：69名，2014年度：68名，2015年度：57名，2016年度：51名，2017年度：54名）すべての症例報告の内容を症例集抄録から集計した.

この中には，「朝日大学歯学部附属病院において1年間研修」,「朝日大学歯学部附属病院4か月＋協力型施設8か月研修」の2パターンが含まれる.

2. 演題の分類

まず，どのような症例が選択されているかを調査し，演題の項目を書き出した.

大項目として歯内療法，歯冠修復，抜歯，その他口腔外科関連，小児，インプラント，クラウン・ブリッジ，スプリント，矯正・小児，歯周病，義歯，コンビネーション（抜歯，根管治療，コンポジットレジン修復，クラウン・ブリッジ，義歯などをトータルで経験した症例）に分類した．さらに小項目として表に示すような項目に細分化した（表1).

結　果

1. 演題数

2010年度から2017年度までの8年間に報告された症例数は，500題であった．内訳は2010年度80題，2011年度59題，2012年度62題，2013年度69題，2014年度68題，2015年度57名，2016年度51名，2017年度54題であった.

2. 大項目からみた演題の割合

500題の症例を大項目で分類した割合をグラフに示す（図1).

コンビネーションが110題（22%）で最も多く，次いで義歯106題（21.2%），歯冠修復97題（19.4%），抜歯76題（15.2%），歯内療法39題（7.8%），その他外科24題（4.8%），インプラント14題（2.8%），クラウン･ブリッジ14題(2.8%),矯正･小児8題(1.6%),歯周病6題（1.2%），スプリント4題（0.8%），小児2題（0.4%）であった.

3. 小項目からみた演題の割合

500題の症例を大項目からさらに表1のように細分化して集計すると（図2),コンポジットレジン修復（大項目：歯冠修復）が最も多く60題，次いで，抜髄後，補綴,保存治療を行った症例（大項目:コンビネーション）が42題，感染根管治療後，補綴，保存治療を行った症例（大項目：コンビネーション）が33題，抜歯（大項目：抜歯）31題，智歯抜歯（大項目：抜歯）28題，FD新製（大項目：義歯）27題，PD新製（大項目：義歯）24題，感染根管処置（大項目：歯内療法）23題であった.

義歯の新製に関しては，FD，PD新製，抜歯後義歯の新製，クラウンブリッジ装着後の新製，即時義歯，顎義歯も含めてトータルすると106題であった.

年度別では，2016年（12/51題）と2017年（13/54題）はコンポジットレジン修復が最も多いが，2015年は抜歯(9/57題),2014年は感染根管処置(8/68題)，2013年はコンポジットレジン修復（9/69題），2012年は抜歯後根治，保存，補綴治療（9/62題）2011年は抜歯後PD（6/59題），2010年抜髄後保存補綴治療（12/80題）が多かった.

インプラント関連の治療は，除去，前処置，抜歯，埋入，暫間補綴，最終補綴があり，2010年度から2015年度までは1～4題であったが，2016年，2017年は0題であった.

考　察

朝日大学歯学部附属病院において，「本院1年間」,「本院4か月＋協力型施設8か月」の2つのコースが存在した時期における症例報告のテーマを調査したが，大項目では，コンビネーション（1つの処置ではなく抜歯，根管治療，CR，クラウン・ブリッジ，義歯などをトータルで経験した症例），義歯，歯冠修復，抜歯が演題として多くを占めた.

表１　項目の分類

大項目	小項目
歯内療法	・抜髄
	・感染根管処置
	・根切（歯根嚢胞摘出、逆根充を含む）
歯冠修復	・メタルインレー（Gold を含む、技工操作を含む）
	・ＣＲインレー、セラミックインレー（ジルコニアを含む）
	・ＣＲ（金属アレルギー、破折歯ＴＭＳピンを含む）
	・レーザー（齲蝕除去、歯肉メラニン除去）
	・齲蝕予防
	・ホワイトニング（ホーム・オフィス、ウォーキングブリーチ）
	・直接覆髄
	・間接覆髄、インレー
抜歯	・抜歯（内骨症を含む）
	・抜歯（智歯）（消炎後を含む）
	・抜歯（正中過剰歯、正中逆性埋伏過剰歯）
	・抜歯+嚢胞摘出
	・歯の移植、再植（外科的挺出）
その他外科	・その他外科関連
	・訪問診療（多数歯抜歯、遷延性意識障害患者）
	・顎関節症（スプリント）
小児	・口腔機能療法 MFT、ブラッシング、抜歯、C処、予防塡塞
インプラント	・インプラント関連（除去、前処置、抜歯、埋入、暫間、最終補綴）
Cr. Br.	・ FMC
	・HJC、オールセラミッククラウン、CAD/CAM 冠、ハイブリッド冠（金属アレルギーを含む）
	・ブリッジ（前歯、オベイドポンティックを含む）
	・修理（レジン前装部修理、クラウン脱離再装着のレジン支台築造）
スプリント	・バイトプレート（咬合不調和　リウマチ）
	・ナイトガード（食いしばり）
	・スリープスプリント（睡眠時無呼吸）
矯正・小児	・挺出（根管治療、クラウン）
	・乳歯早期喪失（バンドループ）
	・矯正（咬合誘導、正中離開クリアライナー）
歯周病	・軽度ペリオ
	・重度ペリオ、SRP（抜歯、上下 PD を含む）
義歯	・FD 新製
	・PD 新製
	・FD、PD 新製
	・抜歯後 FD 新製
	・抜歯後 PD 新製
	・抜歯後 FD、PD 新製
	・FD コピーデンチャー製作後新製
	・顎補綴
	・磁性アタッチメントオーバーデンチャー修理
	・抜歯後 PD 増歯修理（リラインを含む）
	・即時義歯（片顎 PD 新製を含む）
コンビネーション	・補綴前処置歯冠長延長術後オールセラミック Cr
	・CR、インレー、Cr
	・Cr または Br　後 PD 新製
	・抜歯後、他（Endo、インレー、Cr. Br. 、PD 新製）
	・抜髄後　他（CR、インレーCr. Br.、PD 新製、修理）
	・感根処後、他（CR、インレー、Cr. Br.、PD、FD 新製）

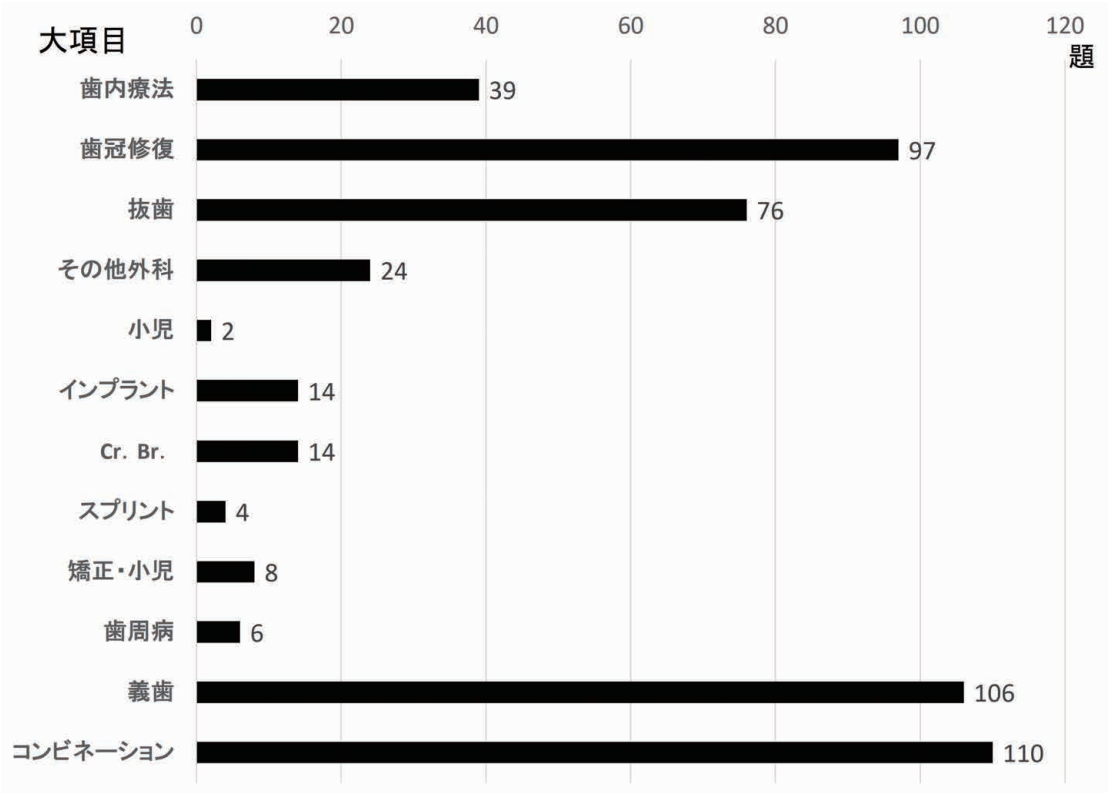

図１　臨床研修歯科医症例報告のテーマの割合（大項目）

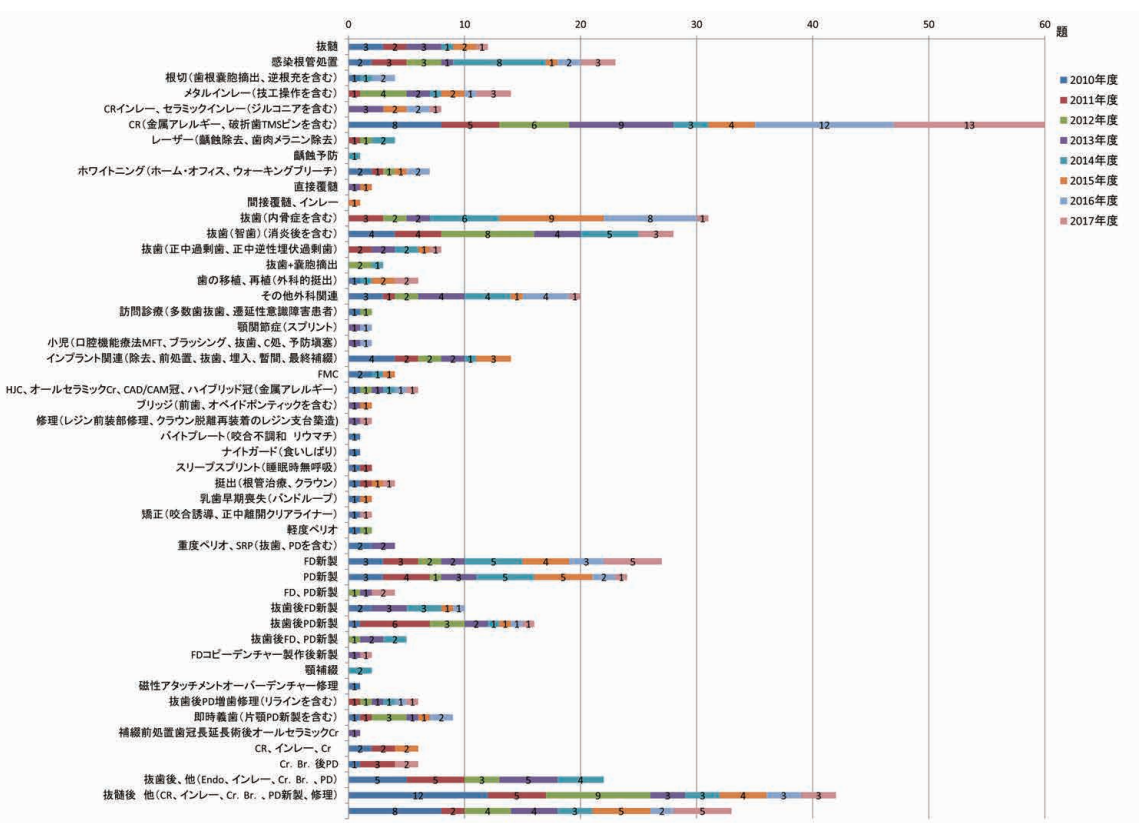

図２　臨床研修歯科医症例報告のテーマの割合（小項目）

「コンビネーション」症例が多いのは，1つの課題に焦点を絞るのではなく，一人の患者さんの治療を流れとして経験することに重きを置き多数の分野の治療を選択していると考える．

また，「義歯」は他の治療に比べて可逆的な治療過程が多いことから，症例を選べば研修歯科医が取り組みやすい項目であり，選択する者が多かったと考える．

小項目では，「コンポジットレジン修復」，「抜歯・根管治療・クラウンブリッジ・義歯のように一連の流れを経験する治療」，「抜歯・智歯抜歯」がテーマとして多く選択された．これらの治療は臨床研修歯科医ならずとも高頻度に遭遇するケースであり，日常臨床を反映していた．これは関ら[6]の7年間の調査より，高頻度治療が歯科医師臨床研修の症例報告のテーマとして選択されるという報告と一致している．また，村上ら[7]の8年間の調査より，臨床研修医のプログラムにおいて，保存系，補綴系，外科系の順に臨床を経験するという報告，紺井ら[8]の7年間の研修状況の調査より，歯周基本検査，次いでコンポジットレジン修復を高頻度で経験するという報告から，高頻度治療は他大学とも一致し，それが症例報告のテーマの選択に結びついていると考えられる．しかし，紺井らが最も高頻度と報告した歯周基本検査は，本学においては少なかった．これは，歯周病関連は長期経過を必要とするため早期から取り組まなくてはならず，本学臨床研修医の症例テーマの決定時期が遅いことが影響していると考えられる．

インプラント関連の治療は，2015年までは症例のテーマに1～4題と低頻度ではあるが選択されていたが，2016年，2017年には1題も選択されなかった．これは，インプラント関連の治療は，治療計画，診断，インフォームドコンセント，検査，前処置，埋入，暫間補綴，最終補綴といった期間を要する治療でありスキルも必要であることから，臨床研修歯科医自身が中心となって施すことができる処置ではないためであると思われる．

当初は，指導医が中心となり行ったインプラント治療の一部を研修歯科医が介助として加わり，それを症例発表していた者もいたが，近年は，短い研修期間中に自身で修得し自身が実践できる内容を選択する傾向にあると考えられる．

歯科医師研修制度に則り一般的な歯科臨床技術を習得する努力義務が求められるが[1]，アドバンスな側面を持つインプラント治療の習得に到達するには様々な問題がある．インプラント治療の機会は今後頻度が高くなっていくことが予測されることから，歯科医師臨床研修の段階でインプラント学の知識を習得する必要性があり[9]，今後研修プログラムに組み込んでいく必要があると考える．

限られた時間の中での症例発表において，「歯内療法，保存修復，抜歯，その他口腔外科関連，クラウン・ブリッジ，義歯，歯周病などのテーマを1つに絞り報告している症例」では，そのテーマにこだわり深いところまでまとめた発表となり，「コンビネーション（抜歯，根管治療，クラウン，ブリッジ，義歯などをトータルで経験した症例をまとめて報告している症例）」は，一連の流れを学んだことに重きを置いた発表となる．

どちらが適切とは言えないが，臨床研修歯科医が症例のテーマを選択するにあたり，研修施設や研修指導医の専門（得意）分野に影響を受けるとも考えられる．今後，そのテーマの影響や傾向について検討していくことが研修を充実させるために有効であると考える．

また，2018年より朝日大学では，歯科医師臨床研修医のプログラムやシステムが変更になった．統括指導医，管理指導医のほかに，臨床指導医の存在によって臨床研修医が様々な診療科の指導医と関わることが容易となり，また，学外講師を招聘した講義を受けることにより研修医の視野が広まっていると考える．今後も歯科医師臨床研修をより充実させることにより，集大成となる症例発表もより充実していくと考えられる．

結　論

朝日大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修において，2010年度から2017年度の8年間に発表された500題の症例の演題を調査した結果，以下の結論を得た．

1. 研修歯科医の症例発表には，「コンポジットレジン修復」，「抜歯・根管治療・クラウンブリッジ・義歯のように一連の流れを経験する治療」，「抜歯・智歯抜歯」といった高頻度治療のテーマが選択される傾向がみられた．
2. テーマを選択するにあたり，研修施設や研修指導医の専門（得意）分野に影響を受けると考えるが，今後，その傾向について検討していくことが研修を充実させるために有効である．

本論文の要旨は，第37回日本歯科医学教育学会学術大会（2018年7月27，28日，郡山市）において発表した．
本論文に関連し，開示すべきCOI関係にある企業などはない．

文　献

1）厚生労働省．歯科医師臨床研修制度ホームページ．歯科医師臨床研修制度の概要．https://www.mhlw.

go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/shikarinsyo/gaiyou/index.html（Accessed2022.9.05）
2） 荒木章純．歯科医師臨床研修医教育について―法制化から現在―．愛院大歯誌．2019；57：241-251.
3） 藤井規孝．歯科臨床教育の現状と課題．新潟歯学会誌．2013；43：1-15.
4） 秋山仁志，三代尾冬彦，羽村章，横澤茂，小川智久．日本歯科大学附属病院協力型臨床研修施設における研修歯科医の診療実績に関する調査．日歯医療管理誌．2015；50：162-169.
5） 新田浩，俣気志朗．臨床研修施設の側からみた歯科医師臨床研修の現状・課題とその行方．歯科評論．2016；76．59-63.
6） 関啓介，齊藤邦子，古池美佳，紙本篤．日本大学歯学部付属病院歯科医師臨床研修の過去7年間における症例報告テーマの傾向．日歯教誌．2013；29：43-49.
7） 村上幸生，川田朗史，岡田典久，松村華穂，荒木久生，松見秀之，鈴木正二．明海大学病院歯科医師臨床研修プログラムにおける研修歯科医師の8年間の実態調査．明海歯学．2022；51：16-20.
8） 紺井拡隆，北野忠則，菊池優子，大井治正，小川文也，前田照太．大阪歯科大学附属病院単独型歯科医師臨床研修における臨床研修必修化後の研修状況．日歯教誌．2016；32：37-46.
9） 関啓介，紙本篤，萩原芳幸．日本大学歯学部付属歯科病院歯科医師臨床研修プログラムにおけるインプラント治療実習．日口腔インプラント誌 2014；27：346-352.